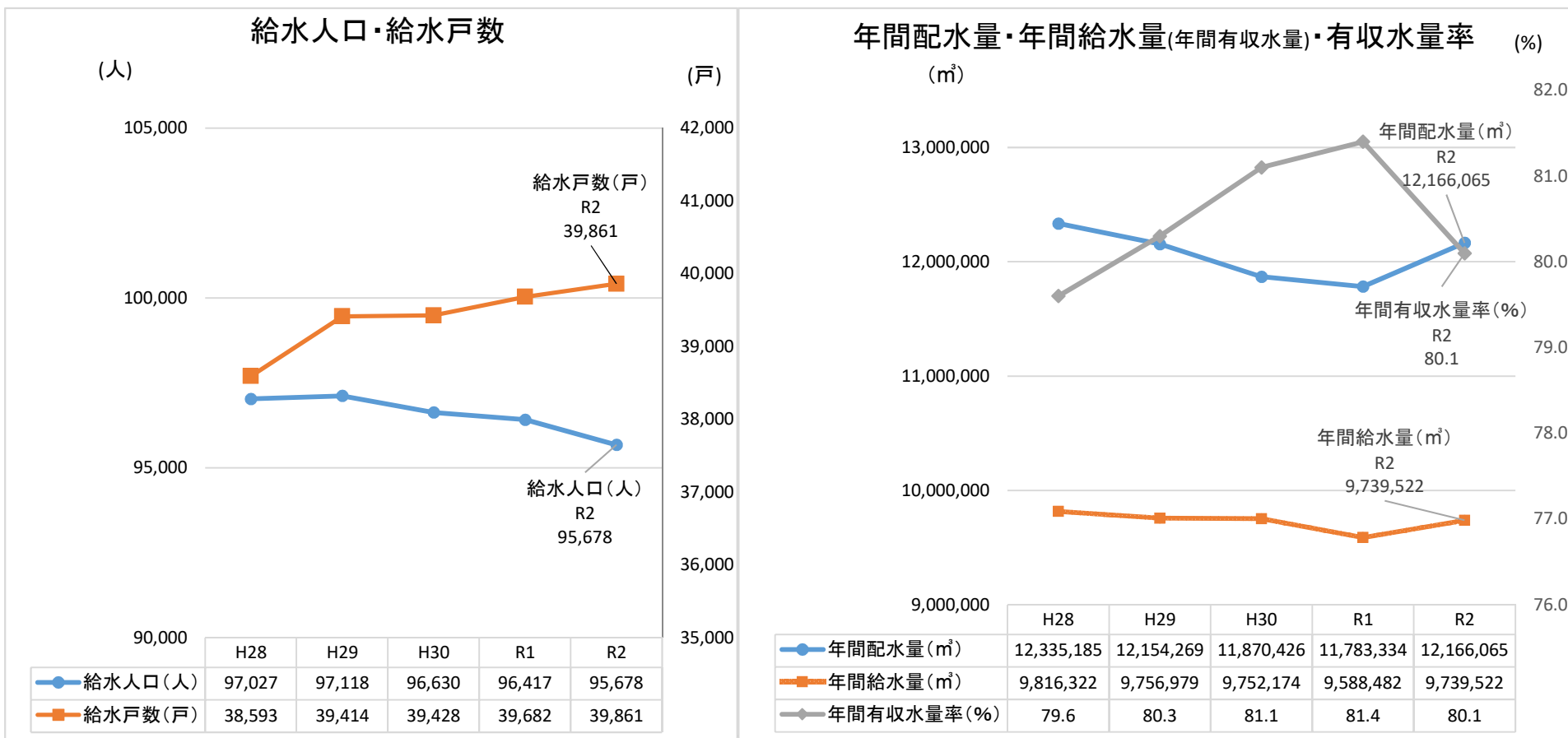


令和2年度 安曇野市上下水道事業 決算概要

I 水道事業決算概要

1 業務量 (決算書 24ページ)



2 収益的収支（損益計算書）（決算書 4～5ページ、24ページ、28～31ページ）

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。

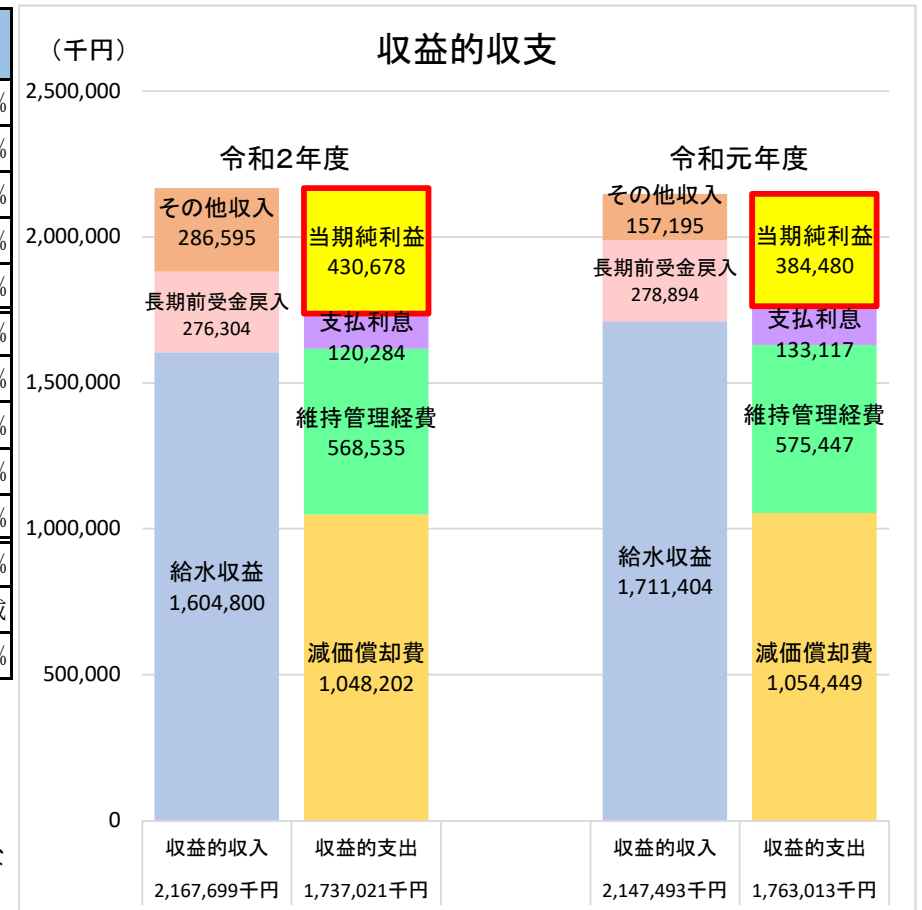
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

収益的収支	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
営業収益	1,765,493	1,865,572	△ 100,079	△ 5.36%
うち給水収益	1,604,800	1,711,404	△ 106,604	△ 6.23%
営業外収益	402,206	281,851	120,355	42.70%
うち長期前受金戻入	276,304	278,894	△ 2,590	△ 0.93%
収益計①	2,167,699	2,147,423	20,276	0.94%
営業費用	1,615,097	1,627,352	△ 12,255	△ 0.75%
うち減価償却費	1,048,202	1,054,449	△ 6,247	△ 0.59%
うち資産減耗費	9,373	25,063	△ 15,690	△ 62.60%
営業外費用	121,924	135,661	△ 13,737	△ 10.13%
費用計②	1,737,021	1,763,013	△ 25,992	△ 1.47%
経常損益①-②	430,678	384,410	46,268	12.04%
特別損益	0	70	△ 70	皆減
純損益	430,678	384,480	46,198	12.02%

損益では、総収益が21億6,769万9千円で、総費用は17億3,702万1千円となり、純損益は4億3,067万8千円の黒字で、前年度に比べ4,619万8千円増加となりました。収益のうち水道料金は新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済的支援対策として、基本料金の7月・8月請求分の1期2か月分を減免しました。減免対象件数は3万9,518件、減免対象料金は1億2,518万1,807円（消費税込）となりましたが、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」により補填されました。一方、電子機器製造業などの企業において使用水量が増加となり、特別損益を含めた収益全体では2,020万6千円増加となりました。

費用は動力費及び企業債支払利息等の減少を主な要因として、全体で2,599万2千円減少したため、純損益は増加となりました。



※ 令和元年度の表中収益計とグラフの収益的収入の差額7万円は特別利益です。

3 資本的収支 (決算書 2～3 ページ、32～33 ページ)

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和2年度	令和元年度	増減	増減率
資本的収入 (a)		258,023	446,586	△ 188,563	△ 42.22%
	うち企業債	83,000	93,000	△ 10,000	△ 10.75%
資本的支出 (b)		1,773,919	1,858,113	△ 84,194	△ 4.53%
	うち企業債償還金	587,015	570,926	16,089	2.82%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,515,896	△ 1,411,527	△ 104,369	7.39%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	103,131	107,843	/	
	損益勘定留保資金(※1)	1,062,765	823,684		
	建設改良積立金	350,000	480,000		

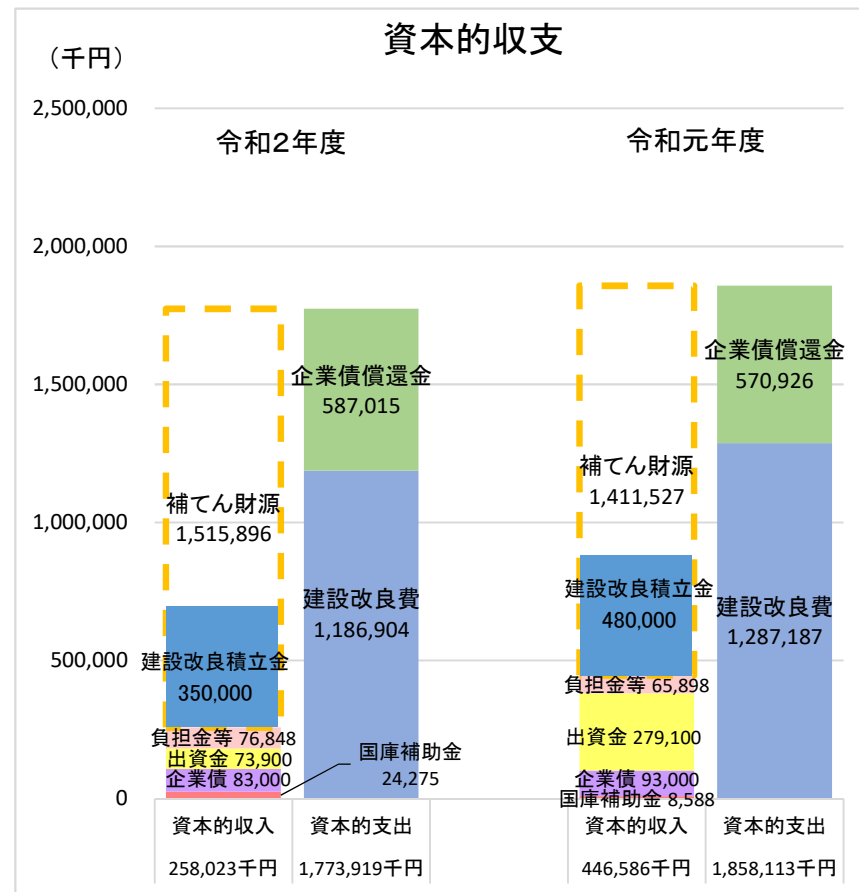
資本的収入は2億5,802万3千円で、企業債及び一般会計出資金の減少により1億8,856万3千円減少しました。

資本的支出は17億7,391万9千円で、豊科・明科地域整備事業の建設改良費減少により8,419万4千円減少しました。

収支差引で不足する15億1,589万6千円は、過年度分損益勘定留保資金10億5,443万1千円、当年度分損益勘定留保資金833万4千円、建設改良積立金3億5千万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



4 貸借対照表 (決算書 8～9ページ)

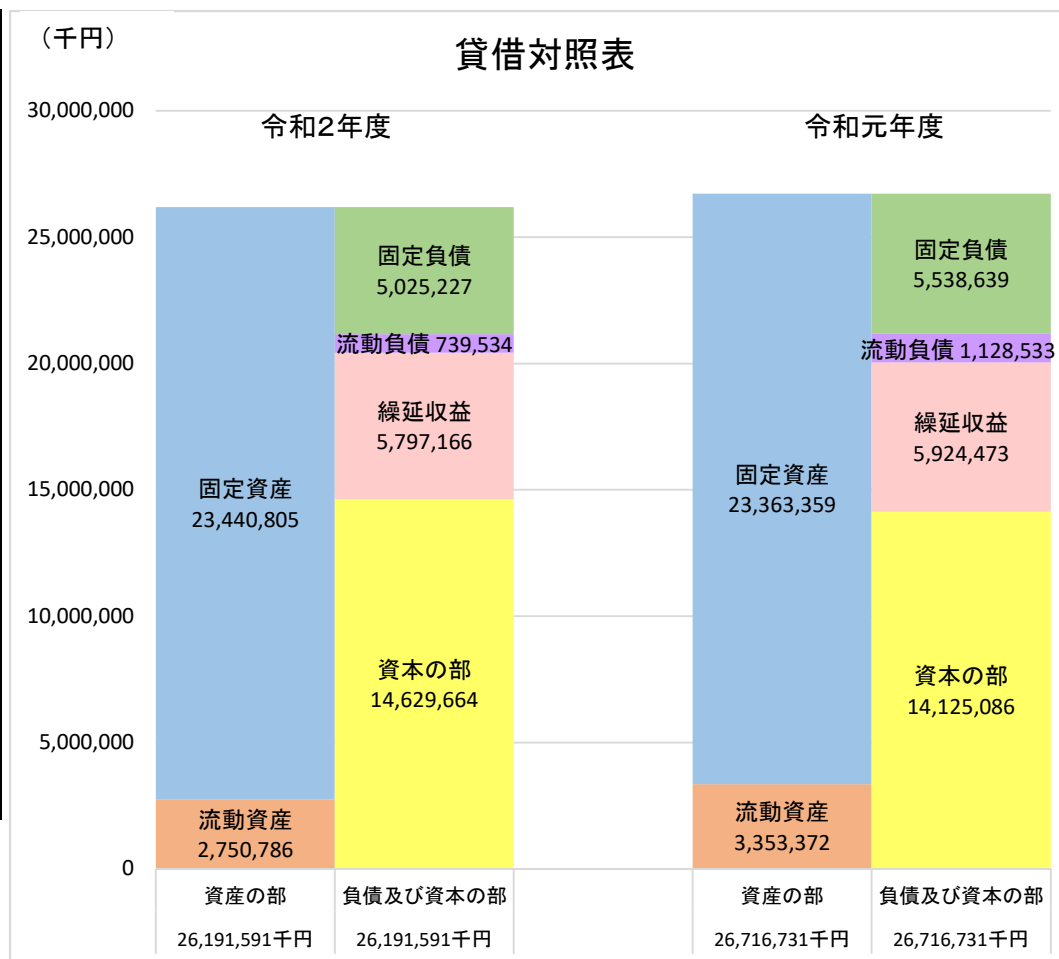
財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
資産	26,191,591	26,716,731	△ 525,140
固定資産	23,440,805	23,363,359	77,446
流動資産	2,750,786	3,353,372	△ 602,586
うち現金	2,631,600	2,943,473	△ 311,873
負債	11,561,927	12,591,645	△ 1,029,718
固定負債	5,025,227	5,538,639	△ 513,412
うち企業債	5,025,227	5,538,639	△ 513,412
流動負債	739,534	1,128,533	△ 388,999
うち企業債	596,412	587,015	9,397
繰延収益	5,797,166	5,924,473	△ 127,307
資本	14,629,664	14,125,086	504,578
資本金	12,247,496	11,693,596	553,900
剰余金	2,382,168	2,431,490	△ 49,322
資本剰余金	193,990	193,990	0
利益剰余金	2,188,178	2,237,500	△ 49,322
負債+資本 計	26,191,591	26,716,731	△ 525,140

令和2年度は企業債の借入を行いました。企業債償還等により負債は10億2,971万8千円減少しました。

また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金の組入と一般会計出資金の繰入により資本金は増加しました。



5 キャッシュ・フロー計算書（決算書 27ページ）

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

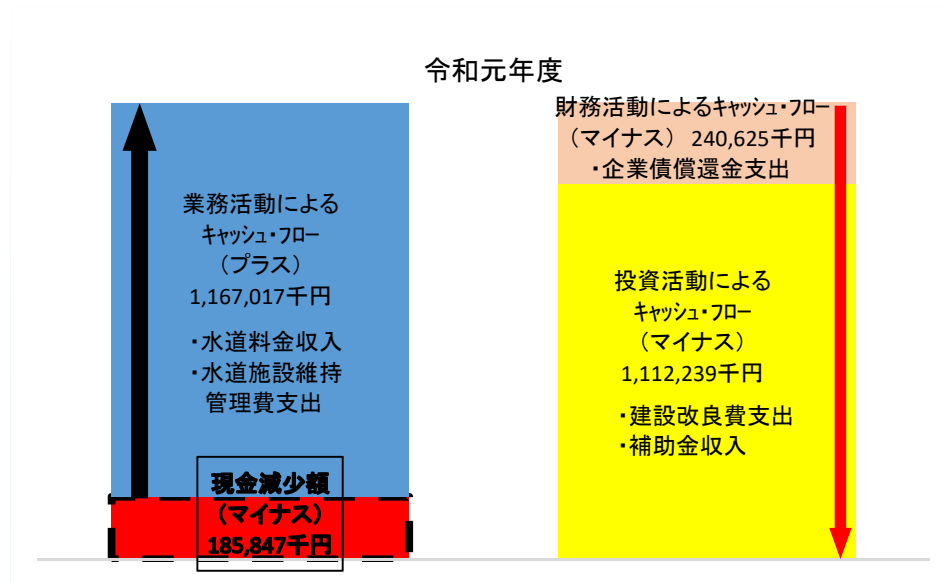
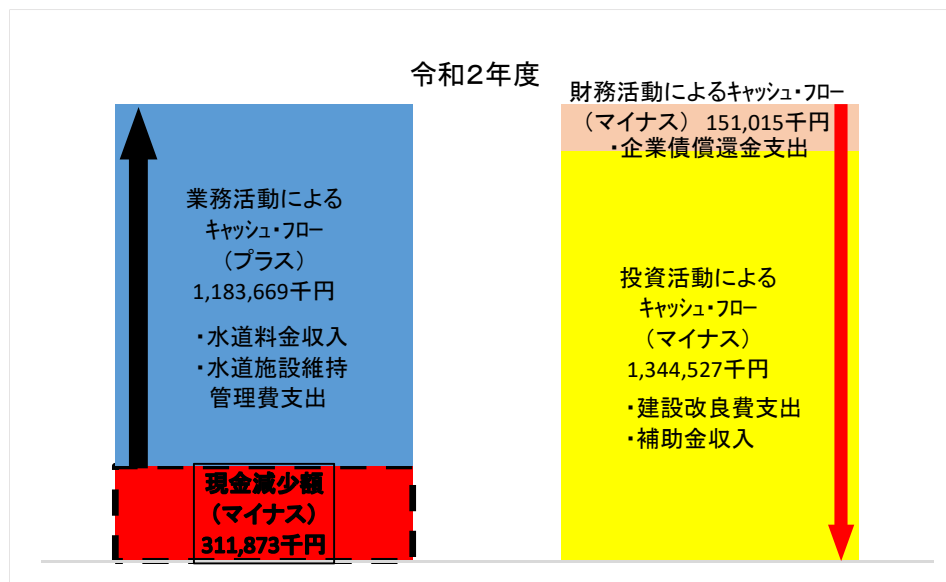
投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,183,669	1,167,017	16,652
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,344,527	△ 1,112,239	△ 232,288
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 151,015	△ 240,625	89,610
現金増減額	△ 311,873	△ 185,847	△ 126,026
現金期首残高	2,943,473	3,129,320	△ 185,847
現金期末残高	2,631,600	2,943,473	△ 311,873

業務活動による現金は、11億8,366万9千円のプラスで順調な経営状況となっています。投資活動による現金は、13億4,452万7千円のマイナスで主要管路整備導・配水管布設替工事、豊科・明科地域整備事業等の建設改良費を支出しました。財務活動による現金は、1億5,101万5千円のマイナスで企業債・一般会計出資金の収入を企業債償還金の支出が上回りました。現金の期末残高は、26億3,160万円となりました。

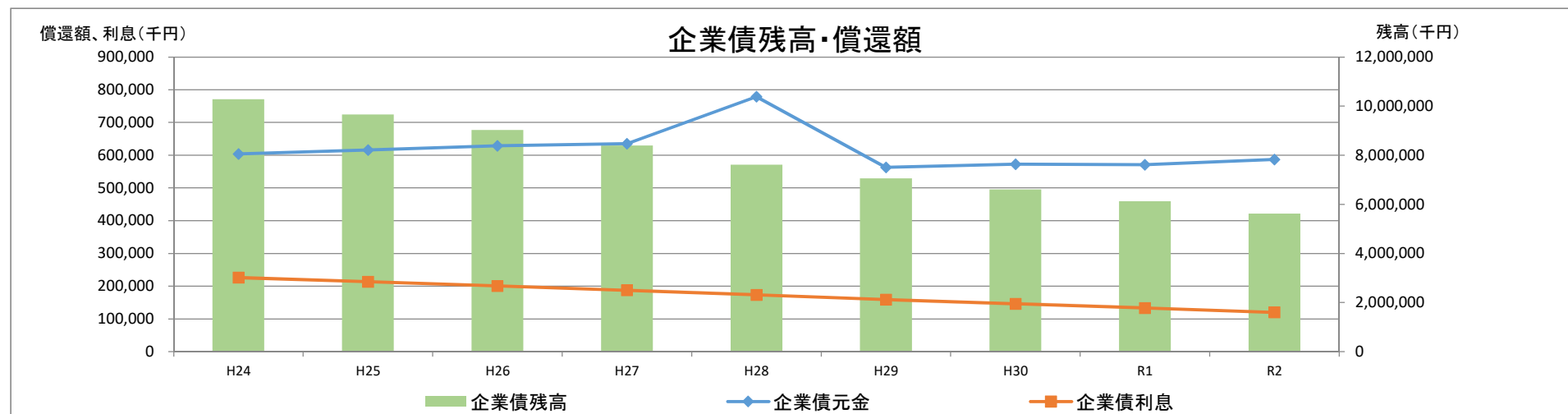


6 企業債（決算書 26ページ、35～36ページ）

(千円)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年度末残高	7,617,532	7,054,430	6,603,580	6,125,655	5,621,639
借入額	0	0	122,000	93,000	83,000

令和2年度は主要管路整備配水管等布設工事費の財源を確保するために、8,300万円の企業債を借り入れました。
 一方で、5億8,701万5千円の元金償還により、年度末の企業債残高は56億2,163万9千円となりました。
 また、企業債利息として1億2,028万4千円を支払いました。



7 利益剰余金（決算書 6～7ページ）

(千円)

前年度からの繰越利益剰余金 A	900
当年度変動額 B	780,678
当年度純利益	430,678
積立金の取り崩し	350,000
当年度未処分利益剰余金 (C=A+B)	781,578

利益剰余金処分(案) (千円)

建設改良積立金の積立	△ 430,678
資本金への組入れ	△ 350,000
処分数計 D	△ 780,678
(千円)	
翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	900



当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額90万円と当年度純利益4億3,067万8千円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した3億5千万円の合計7億8,157万8千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

令和2年度に上水道事業で実施した主な取組みについて

①豊科明科地域整備事業

《送配水管布設・明科第2水源改修》

犀川右岸側に位置する豊科明科地域の配水系の統一化のため、平成29年度より送水管、配水管の布設工事を進めてきましたが、令和2年度に予定工事が完了したことにより、犀川右岸地域への水道水の安定供給と耐震化を行うことができました。

改修後の明科第2水源



●送配水管布設工事 3路線 L=1,615m C=128,579千円（豊科光・明科光、中川手）
 明科第2水源地改修工事 一式 C=127,490千円

②主要管路整備事業

《導水・配水管布設》

水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、重要給水施設への給水ルートの耐震化を進めることができました。

管路掘削



管布設



舗装復旧



●主要管路布設工事 3路線 L=1,500m C=99,528千円（豊科高家・穂高）

③安全な水道水の供給

《濁度計設置工事》

拠点配水池に接続している水源に濁度計を設置することにより、地震などによる取水の濁りを感じし、瞬時に取水を停止することができ、配水池内に濁った水の流入を防止することができます。

盤据付・結線



濁度計調整



中央監視改造



●濁度計設置工事 一式（豊里2号井） C=69,300千円

④施設の更新事業

《明科第3水源地電気・計装設備改修工事》

上水道施設の正常な運転を維持するため、点検結果や更新基準を基に施設の更新を行い、常に安定した施設の状態を確保します。ポンプ制御盤及び計装盤の更新を行いました。

盤撤去



盤据付・結線



しゅん工

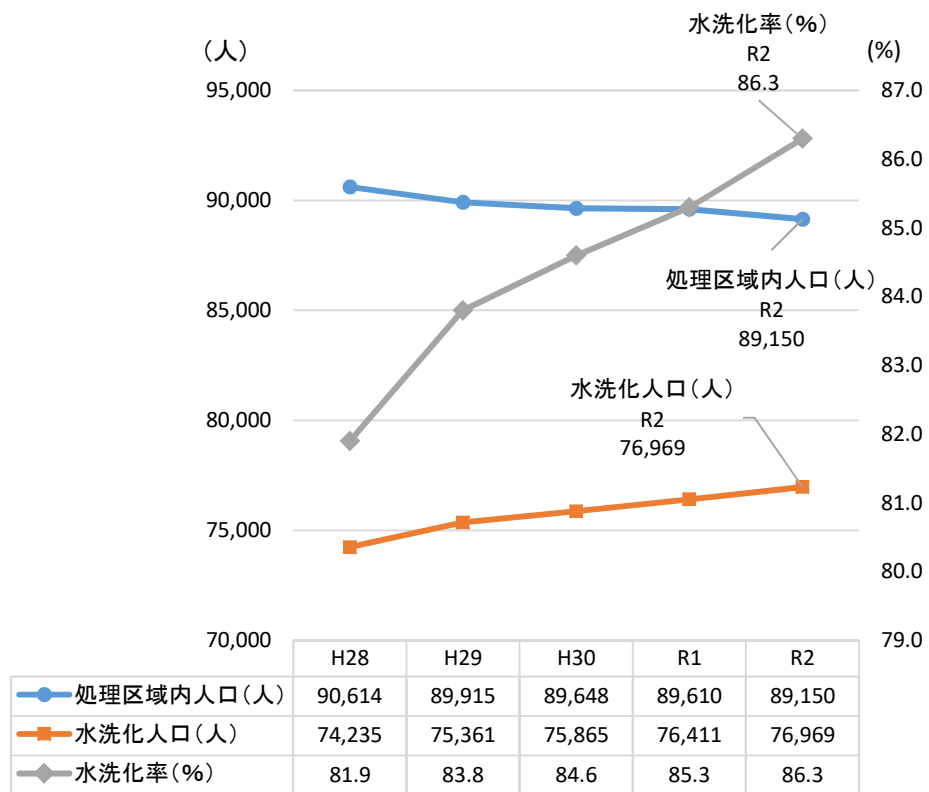


●電気・計装設備改修工事 一式 C=46,200千円

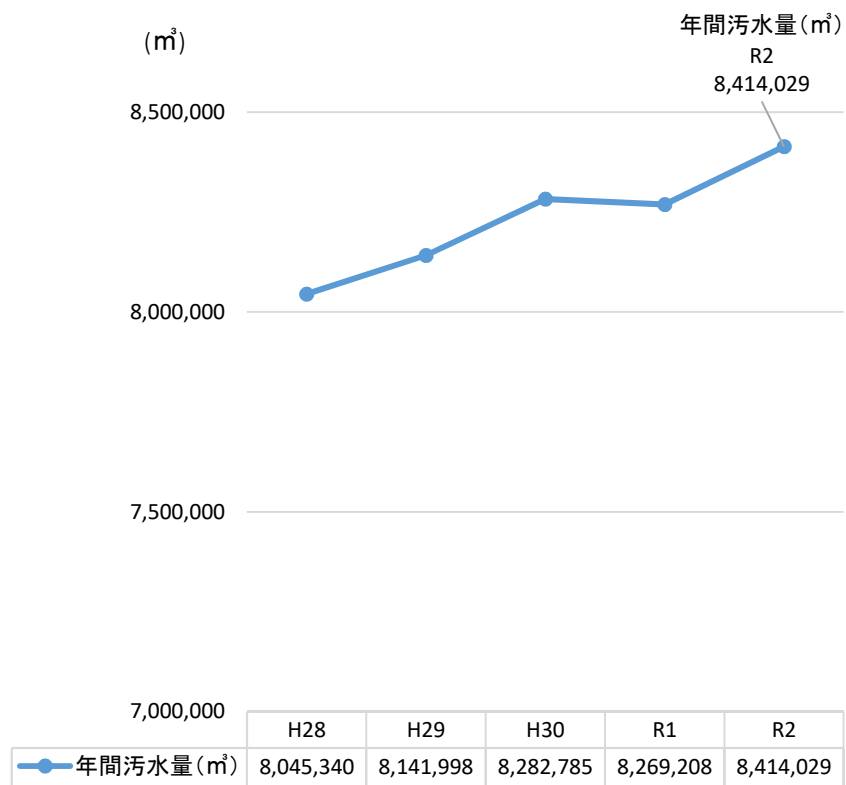
II 下水道事業決算概要

1 業務量 (決算書 53ページ)

処理区域内人口・水洗化人口・水洗化率



年間汚水量



2 収益的収支(損益計算書) (決算書 42~43ページ、54ページ、58~61ページ)

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。

下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

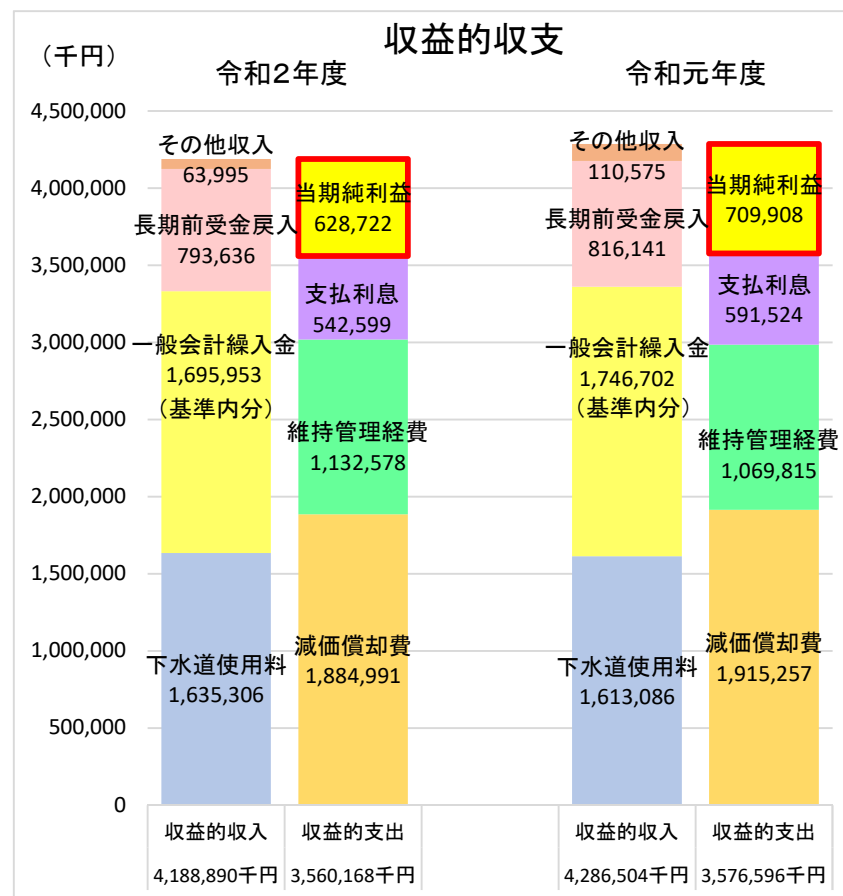
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
営業収益	1,667,606	1,639,711	27,895	1.70%
うち下水道使用料	1,635,306	1,613,086	22,220	1.38%
営業外収益	2,521,284	2,646,793	△ 125,509	△ 4.74%
うち一般会計繰入金	1,695,953	1,746,702	△ 50,749	△ 2.91%
収益計 ①	4,188,890	4,286,504	△ 97,614	△ 2.28%
営業費用	3,014,222	2,978,143	36,079	1.21%
うち減価償却費	1,884,991	1,915,257	△ 30,266	△ 1.58%
営業外費用	545,946	598,453	△ 52,507	△ 8.77%
費用計 ②	3,560,168	3,576,596	△ 16,428	△ 0.46%
経常損益 ①-②	628,722	709,908	△ 81,186	△ 11.44%
特別損益	0	0	0	
純損益	628,722	709,908	△ 81,186	△ 11.44%

収益は41億8,889万円で、下水道使用料の増加に伴う一般会計繰入金の減少により、9,761万4千円減少しました。収益合計の4割は一般会計繰入金が占めています。

費用は35億6,016万8千円で、犀川安曇野流域下水道維持管理負担金、減価償却費及び支払利息の減少に伴い、1,642万8千円減少しました。

純損益は8,118万6千円減少し、6億2,872万2千円の黒字となりました。



3 資本的収支 (決算書 40~41ページ、62~63ページ)

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和2年度	令和元年度	増減	増減率
資本的収入 (a)		819,900	712,960	106,940	15.00%
	うち資本費平準化債	362,100	362,100	0	0.00%
資本的支出 (b)		2,519,436	2,388,049	131,387	5.50%
	うち企業債償還金	2,390,636	2,321,444	69,192	2.98%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,699,536	△ 1,675,089	△ 24,447	1.46%
上記 補てん 財源	消費税資本的収支 調整額	0	0	/	
	損益勘定留保資金 (※1)	989,636	931,689		
	減債積立金	709,900	743,400		

資本的収入は8億1,990万円で、企業債の借入れ及び受益者負担金の増加により、1億694万円増加しました。

資本的支出は25億1,943万6千円で、建設改良費は犀川安曇野流域下水道事業建設負担金や企業債償還金の増加により、1億3,138万7千円増加しました。

収支差引で不足する16億9,953万6千円は、過年度分損益勘定留保資金3億6,652万円、当年度分損益勘定留保資金6億2,311万6千円と減債積立金7億990万円の取り崩しにより補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

(参考) 一般会計繰入金収入額の比較 (決算書 58ページ、62ページ)

(一般会計負担金)

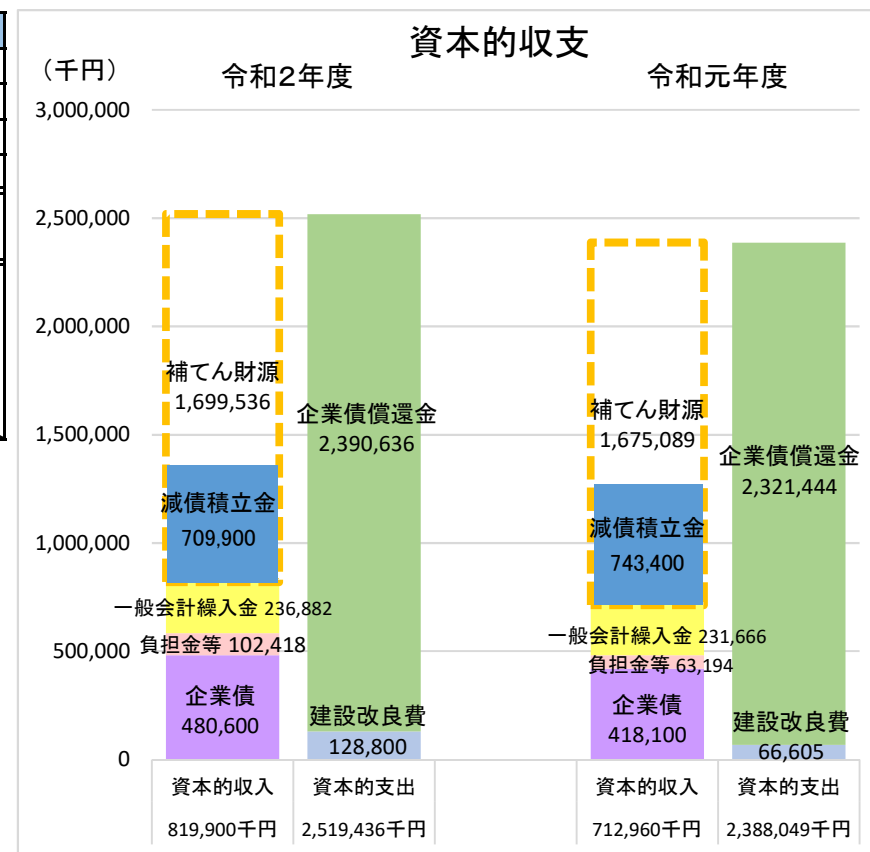
(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
一般会計繰入金合計	1,934,668	1,983,609	△ 48,941
収益的収入	1,697,786	1,751,943	△ 54,157
資本的収入	236,882	231,666	5,216

※収益的収入グラフとの差額は基準外繰入金(営業収益)分です。
(令和2年度 1,833千円、令和元年度 5,241千円)

(千円)

収益的収入 基準内繰入金	1,695,953
収益的収入 基準外繰入金	1,833
上記合計	1,697,786



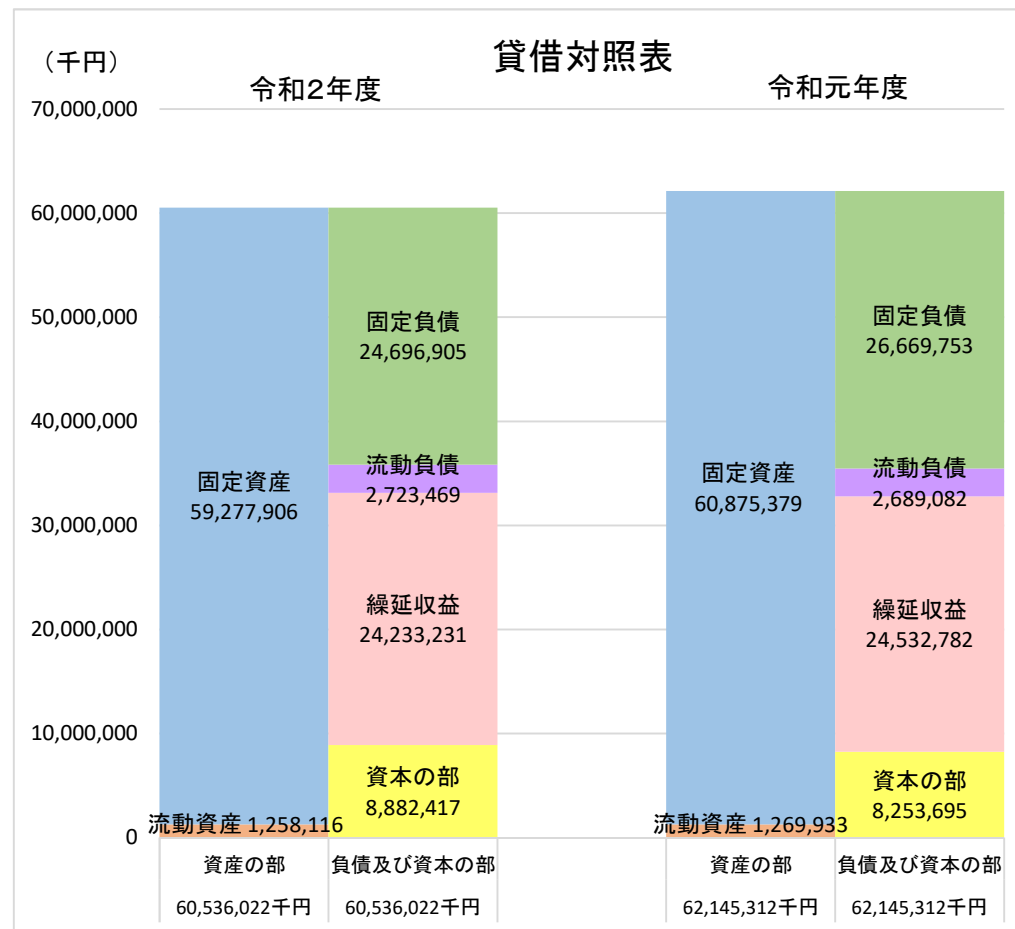
4 貸借対照表 (決算書 46~47ページ)

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
資産	60,536,022	62,145,312	△ 1,609,290
固定資産	59,277,906	60,875,379	△ 1,597,473
流動資産	1,258,116	1,269,933	△ 11,817
うち現金	1,138,951	1,158,343	△ 19,392
負債	51,653,605	53,891,617	△ 2,238,012
固定負債	24,696,905	26,669,753	△ 1,972,848
うち企業債	24,696,905	26,669,753	△ 1,972,848
流動負債	2,723,469	2,689,082	34,387
うち企業債	2,453,448	2,390,637	62,811
繰延収益	24,233,231	24,532,782	△ 299,551
資本	8,882,417	8,253,695	628,722
資本金	7,146,173	6,402,773	743,400
剰余金	1,736,244	1,850,922	△ 114,678
資本剰余金	397,447	397,447	0
利益剰余金	1,338,797	1,453,475	△ 114,678
負債+資本 計	60,536,022	62,145,312	△ 1,609,290

企業債残高が271億5,035万3千円で、負債合計の約52%を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金を資本金へ組入れたため、資本金が増加しました。



5 キャッシュ・フロー計算書 (決算書 57ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

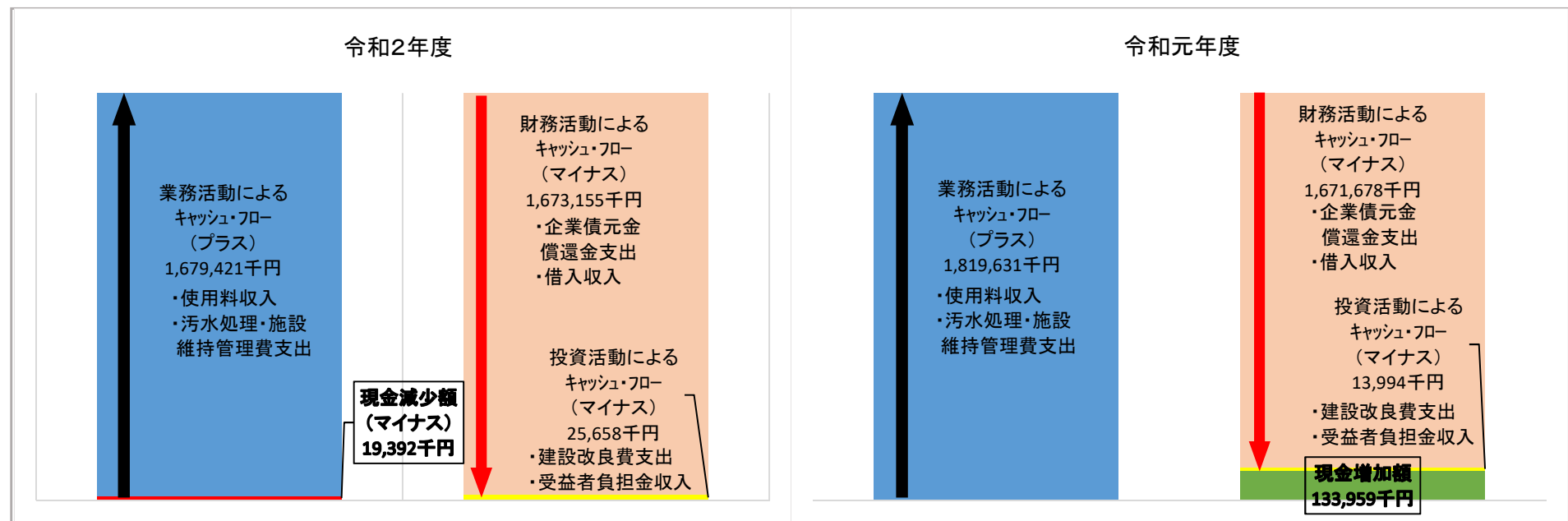
投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,679,421	1,819,631	△ 140,210
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,658	△ 13,994	△ 11,664
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,673,155	△ 1,671,678	△ 1,477
現金増減額	△ 19,392	133,959	△ 153,351
現金期首残高	1,158,343	1,024,384	133,959
現金期末残高	1,138,951	1,158,343	△ 19,392

業務活動による現金は、16億7,942万1千円のプラスで順調な経営となっています。投資活動による現金は2,565万8千円のマイナスで、犀川安曇野流域下水道事業にかかる負担金等を支出しました。財務活動による現金は、16億7,315万5千円のマイナスで企業債の償還金を支出しました。現金の期末残高は、11億3,895万1千円となりました。

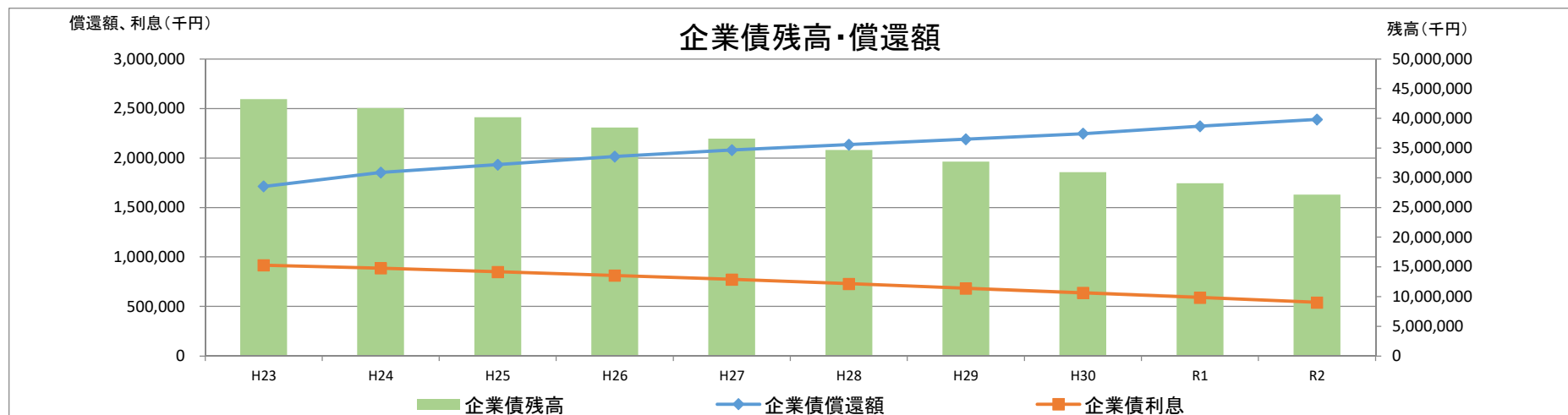


6 企業債（決算書 56ページ、65～78ページ）

(千円)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年度末残高	34,699,360	32,730,946	30,963,734	29,060,390	27,150,353
借入額	223,500	221,900	478,900	418,100	480,600
うち資本費平準化債	0	0	322,100	362,100	362,100

令和2年度は、下水道事業債1億1,850万円と資本費平準化債3億6,210万円を借り入れました。
一方で、23億9,063万7千円の元金償還により、年度末の企業債残高は271億5,035万3千円となりました。
また、企業債利息として5億4,259万9千円を支払いました。



7 利益剰余金（決算書 44～45ページ）

(千円)

前年度からの繰越利益剰余金 A	175
当年度変動額 B	1,338,622
当年度純利益	628,722
積立金の取り崩し	709,900
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	1,338,797



利益剰余金処分(案) (千円)	
減債積立金の積立	△ 628,700
資本金への組入れ	△ 709,900
処分類計 D	△ 1,338,600
翌年度への繰越利益剰余金 (千円)	
翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	197

当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額17万5千円と当年度純利益6億2,872万2千円、資本的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した7億990万円の合計13億3,879万7千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。
当年度の利益は、企業債償還の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

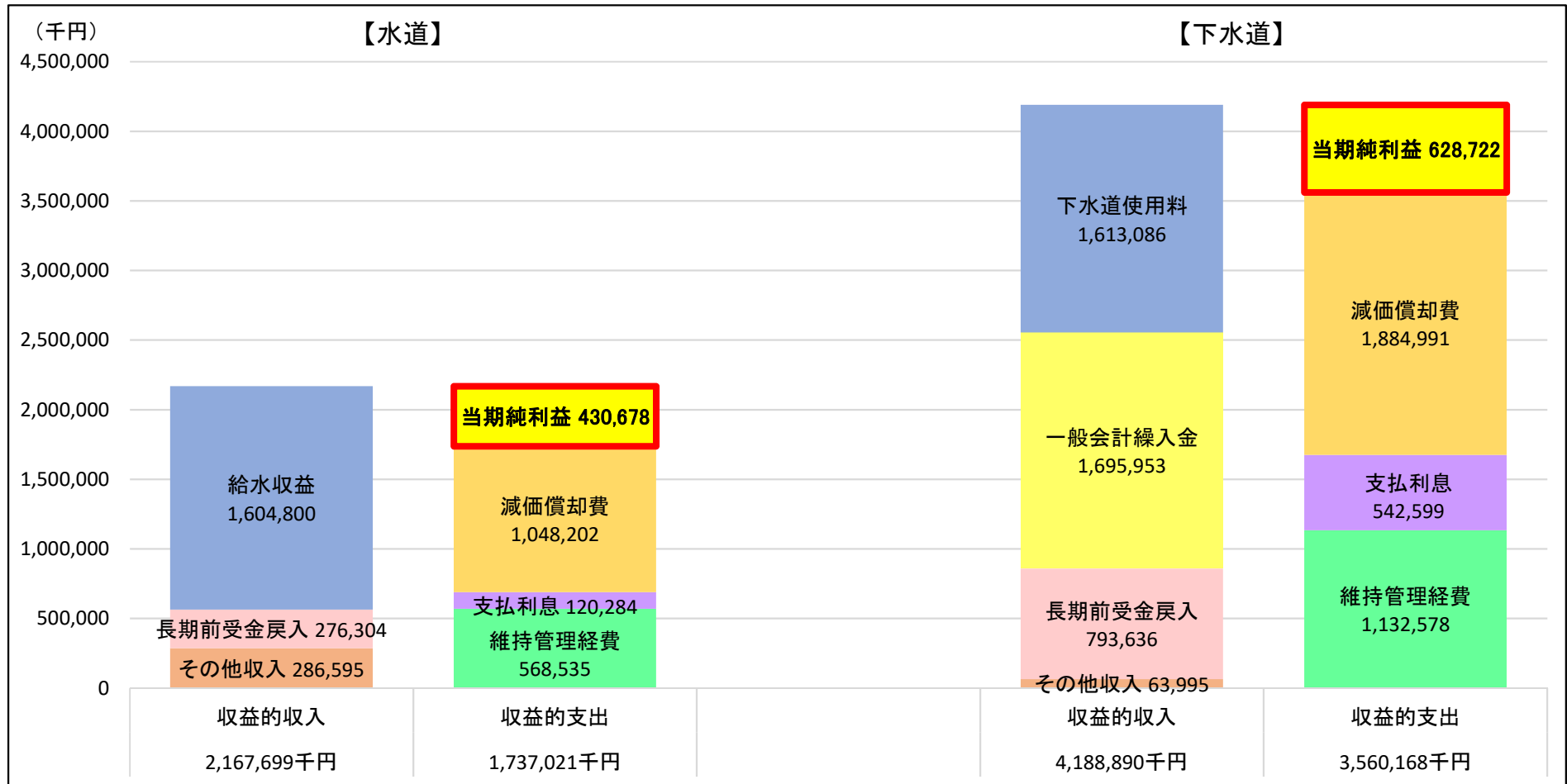
令和2年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

①施設の維持管理	②水洗化率の向上対策(広報)
<p>◀ 下水道施設維持管理 ▶</p> <p>処理場5施設及びマンホールポンプ場160箇所、管きょ797kmの適正な運転管理と施設の維持に取り組み水環境の保全に努めました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="212 470 526 718">  <p>管路自走式カメラ調査 L=1,535m実施</p> </div> <div data-bbox="548 470 873 718">  <p>管口カメラ調査 398箇所実施 (調査区間L=2,549m)</p> </div> </div>	<p>◀ 新デザインマンホールふた『みずかがみ(水鏡)』 ▶</p> <p>安曇野に雪形の常念坊が現れるこの時期、雪解け水を潤された田んぼが水鏡となって映しこまれる景色が楽しまれ、自然と人との共生を表現した安曇野の魅力発信に向けたデザインマンホールふたが完成しました。</p> <p>JR豊科駅前・JR穂高駅前歩道上のマンホールふたを新デザインのふたに更新しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1220 470 1545 718">  </div> <div data-bbox="1556 470 1892 718">  </div> </div> <p style="text-align: center;">JR豊科駅前歩道上に設置されたカラーマンホールふた</p>
<p>●維持管理費 C=186,602千円 委託費:148,092千円 汚泥処分費:19,262千円 修繕費:19,248千円</p>	<p>●設置費 C=891千円</p>
③施設の適正な管理・長寿命化対策	④流域下水道事業
<p>◀ スtockマネジメント計画の策定 ▶</p> <p>老朽化施設の増大による改築需要に適切対応し、事故発生を未然防止するとともに、下水道施設の計画的な点検調査及び長寿命化を含めた対策を講ずるため下水道ストックマネジメント計画を策定しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="212 1149 526 1396">  <p>ポンプ設備の劣化状況</p> </div> <div data-bbox="526 1141 918 1412">  <p>改築実施計画 (R3~R7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域監視通報装置 更新 132箇所 ・マンホールポンプ設備 更新 7箇所 ・管きょ改築 L=41m </div> </div>	<p>◀ 建設負担金 ▶</p> <p>長野県が施行する流域下水道建設改良事業の地元負担金を支出しました。(令和2年度 事業内容)</p> <p>ポンプ棟(処理場)耐震工事、汚泥処理棟耐震工事、ブロウ棟耐震工事、濃縮棟耐震工事など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1220 1149 1545 1396">  <p>ポンプ棟耐震工事(鉄筋挿入状況)</p> </div> <div data-bbox="1624 1149 1948 1396">  <p>汚泥処理棟耐震工事(削孔状況)</p> </div> </div>
<p>●業務委託費 C=12,100千円</p>	<p>●流域下水道事業費 C=121,970千円</p>

Ⅲ 水道事業・下水道事業の比較

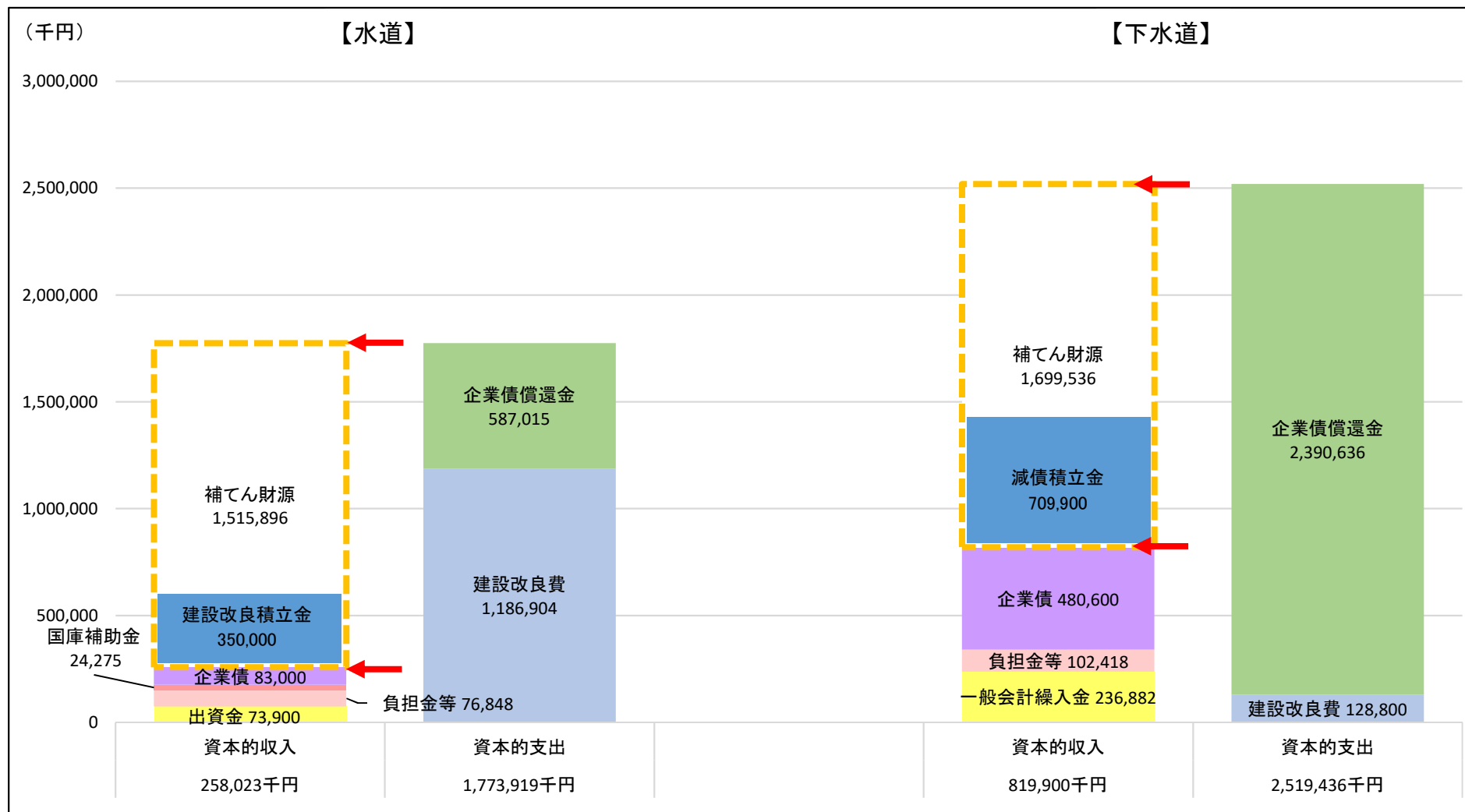
1 収益的収支(損益計算書)

水道事業では、給水収益で費用のほとんどを賅っていますが、下水道事業では、使用料収入だけでは費用全体の4割程度しか賅っていません。下水道事業の経営には、一般会計からの繰入金が必要不可欠であることが分かります。



2 資本的収支

2事業とも施設の整備等に係る財源の不足が発生します。水道事業は、過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金（減価償却費等）や建設改良積立金などにより、不足分を補てんしています。同様に下水道事業も過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金や減債積立金などにより不足分を補てんしています。



3 貸借対照表

財政状態を比較すると、水道事業は資産、負債ともに下水道事業のおおよそ4割となり、事業規模の差がよく分かります。水道事業は主要管路布設替工事、下水道事業は流域下水道建設負担金の財源として企業債の借入れを行いながら、多額な償還も行っています。

